**多機能つむぐの生活訓練は「食」と「ものづくり」で、「意欲・自己肯定感を育てる、発信力を持つ、生活リズムを整える」支援です。手や体を動かして、しっかりと食べることで変わっていく自分を体験しましょう**。

～参考になる流れをご紹介します。プログラムは個別で組み立てます～

**課題：出来ると自信があるのに、集団でうまくいかないのがなぜかわからない。**

**いつも仲間はずれになるような気がする。気持ちがうまく話せない。**

　　　　⇒　　短時間、週１回～自分の通える時間に通う。

　　　　⇒　　お茶を飲みながらスタッフに自分の気持ちを伝える。

　　　　⇒　　単独でのプログラム、共同でのプログラムで意欲をみつける。

　　　　⇒　　自分に出来ることがあるように出来ないこともある自分を認める。

　　　　⇒　　他者に出来ないことがあっても出来ることを認める。

　　　　⇒　　みんな違うことが平等だということを知り、集団になれていく。

**課題：長く自宅で過ごしている。働きたいと思って就労したがつづかなかった。**

**自分はだめだと思う。社会が怖い。**

　⇒　　見学してつむぐの様子を知る。タブレットで紹介動画を見る。

　　　　⇒　　最初は、センターまで来てみることから始める。

　　　　⇒　　個室など、自分が過ごせる場所を試してみる。スタッフと話をする。

　　　　⇒　　短時間、週数日の通所をはじめる。（送迎応相談）

　　　　⇒　　集団の中で、自分の苦手・生きづらさを具体的にする。対応を知る。

　　　　⇒　　「楽しい」「明日が楽しみ」な自分を定着させ、一歩を踏み出す。

**課題：地域で暮らして出来ないことが多いのに通所をどうがんばったらいいか不安。**

**お金の事や家事、公共機関の利用、衣服の調整、整容が苦手。できるようになりたい。**

　　　　⇒　　通所に合わせて、連携するヘルパーサービスや訪問看護を検討する。

　　　　⇒　　自宅の困りごとを整理する。必要なら家計簿支援を受ける。

　　　　⇒　　つむぐでの練習と住まいでの実践を連動して、安心感を得る。

　　　　⇒　　これまでできなかったことや不安だったことをひとつずつ解決していく。

　　　　⇒　　自信をもって、地域社会で暮らし、働くことを考えていく。

**課題：急に障がいだと言われて絶望している。**

　　　　⇒　　見学してつむぐの様子を知る。タブレットで紹介動画を見る。

　　　　⇒　　自分の心身の状態に合わせて、相談・活動を組み立てていく。

　　　　⇒　　作業療法としても有効な「ものづくり」に取り組む。

　　　　⇒　　食べること、暮らすことを積み重ね、一緒にリカバリーにとりくむ。

　　　　⇒　　つむぐからつながる次のステージを共に組み立てていく。

～つむぐの仲間と一緒に、地域で生きる力を育てましょう～